

社会科標準問題

平成27年度

注意

1. 問題は1から5までであるが、そのうち4題を解答すること。どの4題を解答するかは、学校の指示に従うこと。
2. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に指示通り記入すること。
3. 所要時間は50分とする。
4. 解答用紙の選択した(または指定された)問題番号の□に○を記入すること。

大阪府高等学校社会（地歴・公民）科研究会

1 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

西欧に端を発する資本主義経済と科学技術文明のあり方が現在各方面からの批判にさらされている。これらの批判を省みることなく走り続けるなら、どのような未来が待ち受けているのであろうか。存続の危機に直面しているともいえる現代文明を、西欧文明の二つのルーツにさかのぼって、人間にとってのよき生とは何であるのかという観点で探ってみよう。

一般に西欧文明は「ヘレニズム」と称される古代ギリシア文明と、「ヘブライズム」といわれるキリスト教文明によって形成されたとされる。まず、古代ギリシアでは、(a) 神話に語られる英雄たちに見られるように運命のさだめに対して果敢に闘う生き方がよき生として称揚された。しかし、神とは違って「死すべき者」と定められた人間にとって神の定めた運命を乗り越えることは容易ではなく、そこに苦悩する人間の悲劇を読み取る物語も多く作られた。一方で、神話的世界観を越えて世界を人間の知力で理解しようとする営みも古くからあったが、「ロゴスの判定に従え」という格言にみられるように、ことのほかギリシア人は理性的思考を重んじていた。それが(b) タレスに始まるギリシア哲学の伝統の形成を促したことは容易に理解できる。しかし、そんな彼らも人間の知力が神を上回るなどとは考えてはおらず、知的探究と神的なものへの畏敬の念は共存していたのである。ポリスの神をないがしろにしていると告発されたソクラテスも例外ではなく、神のみが知る「善美のことがら」に一歩でも近づくために(c) 知を愛し求めることが、彼にとってのよき生であった。そのソクラテスの弟子プラトンも知を愛し求めることを重視した。彼にとってのよき生とは、(d) 魂が完全な世界であるイデア界に移り住むことであり、知を愛し求めることこそが魂を浄化して不完全な現象界からの解放を促すものであった。しかし、プラトンの弟子アリストテレスにいたって、理想界の設定は否定され、あくまで現実の中に(e) よき生としての最高善が求められたのである。

古代ギリシアではその後、ポリスが崩壊して混乱の時代を迎えるが、いわゆるヘレニズム期にはよき生は時代の混乱に巻き込まれない(f) 魂の平安を求めることにあるとする哲学思想が登場したり、さらにローマの末期にはプラトンの系譜をひく、神を善美そのものであるとして神との神秘的合一をめざす思想が現れたりした。

一方、西欧文明のもう一つのルーツである「ヘブライズム」は、古くは紀元前1000年以上前にさかのぼるヘブライ(イスラエル)人の(g) 唯一神信仰に始まる。この宗教はヘブライ人の民族宗教にとどまっていたが、紀元前後に登場した(h) イエスによる改革運動が後のキリスト教の成立へとつながったのである。キリスト教はヘブライ民族の枠を越え、地中海世界に広く伝播することで西欧人の精神生活に大きな影響を与えることになった。では、彼らにとってのよき生とはどのような生をさすのか。キリスト教思想も時代によってさまざまに変遷するが、原点であるイエスの立場に立ち返るならば、神の愛に目ざめ、神を心の底から信仰し、その(i) 神の愛を自らの人生において実践することが求められたのであった。

こうして西欧文明の二つのルーツをたどってみると、両者ともに神あるいは人間を越えるものに対する畏敬の念がその原点にあるということに気づく。ギリシア世界でもキリスト教世界でもおごり高ぶる者は厳しく戒められている。現代文明の行方を考えるとき、かつて存在したこの大いなる者へのおそれの念が何らかの歯止めにならないものかと思わざるを得ない。

問1 下線部(a)の例として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ゼウス ② ヘラクレイトス ③ オデュッセウス ④ ディオニソス

問2 下線部(b)に関して、次の哲学者たちの説明文の正誤の組み合わせとして最も適当なものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

- A タレスは、万物の根源は水であると説いて、水こそがすべての生きものたちを生かす働きをも持っていると考えた。
B ピタゴラスは、宇宙の調和と秩序は数の比例関係で説明できるとして、数学の研究を重んじた。
C デモクリトスは、物質の最小単位としてのアトムをアルケーとみなし、大きさも配列も均一なアトムが宇宙を隙間なく満たしていると説いた。

- ① A 正 B 正 C 正 ② A 正 B 正 C 誤
③ A 正 B 誤 C 誤 ④ A 正 B 誤 C 正
⑤ A 誤 B 正 C 誤 ⑥ A 誤 B 誤 C 誤
⑦ A 誤 B 誤 C 正 ⑧ A 誤 B 正 C 正

問3 下線部(c)に関して、ソクラテスの立場を説明したものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ソクラテスはよく生きることをアテネ市民に訴えたが、それは魂への配慮、すなわち魂を優れたものにするのであり、魂の本質としての理性を最大限に働かせて知を愛し求めることであった。
② ソクラテスは、よく生きるためには「よい」が何であるかを知ることがまず必要であり、それを知れば行いに結びつくのであり、逆に悪を行ってしまうのは悪のアイデアを知ってしまうからであると説いた。
③ ソクラテスは、地位や名誉や財産に心を奪われ、それらを手にしたところで、魂が優れたものにするための愛知を怠るならむしろ害悪をもたらすだけだとして、それらを速やかに捨て去るべきだと説いた。
④ ソクラテスは、人間にとっての幸福は知を愛し求めることにあるが、それは必ずしも徳を身につけることにはつながらない。しかし、徳を身につければ自ずと正しい行いができると説いた。

問4 下線部(d)に関する次の文章中の空欄に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

人間の魂はもともとアイデア界に住んでいたが、現象界に移り住む際に「忘却の川」を渡ったためアイデアを忘れてしまった。しかし、不完全とはいえ、現象界での事物に接したときに（あ）が直感的にアイデアを（い）する。したがって、魂はいわば肉体という牢獄に閉じこめられた状態であるから、そこからの脱出をはかるためにもアイデアを求める働きとしての（う）が大切なのである。

- ① あ 理性 い 想起 う エロース ② あ 理性 い 認識 う アガペー
③ あ 理性 い 想起 う アガペー ④ あ 感性 い 認識 う アレテー
⑤ あ 感性 い 想起 う アレテー ⑥ あ 感性 い 認識 う エロース

問5 下線部(e)に関して、アリストテレスにとっての最高善として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 享樂的生活 ② 政治的生活 ③ 観想的生活 ④ 宗教的生活

問6 下線部(f)に関するA、B二つの資料を読んで、それぞれについて説明したものとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

A 死や、追放や、すべて恐ろしく思われるものを、毎日目の当たりに思い浮かべるがいい、すべてのうちでとりわけ、死を。そうすれば、きみは、けっしてなにも卑しいことを考えぬだろうし、また、度を越えてなにかを欲張ることもないだろう。

B 自分は一万年も生き永らうことになっている、とでもいいかげんな生活態度をとるな。死すべき者の避くべくもない運命（死）は間近に迫っている。おまえの命あるかぎり、善き者たることの可能であるうちに、善き者となれ。

- ① Aはエピクロス派の資料で、欲望を抑え心の安らかさを求めているのに対して、Bはよく生きるために死を心の支えにして永遠の命を生きろと説いていることからストア派の資料である。
② Aはストア派の資料で、死を思うことで欲望を抑えることを説いているのに対して、Bは、死を運命と捉えて精神的快樂を求めたよき生を勧めていることからエピクロス派の資料である。
③ A、Bともにエピクロス派の資料で、人間の肉体を亡ぼす死を生にとっては何の関わりもないものとみなして、精神に安らぎを見いだそうとしている。
④ A、Bともにストア派の資料で、人間にはどうすることもできない死を受け入れることでかえってよき生の実現が図れると説いている。

問7 下線部(g)に関して、同じ唯一神信仰を厳格に守るイスラーム教についての説明文の正誤の組み合わせとして最も適当なものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

- A イスラーム教では、偶像崇拜は厳しく戒められており、五行の一つに数えられている巡礼の地メッカのカーバ神殿内部にはいかなる像もまつられてはいない。
B イスラーム教では、ユダヤ教やキリスト教にみられるような聖職者は存在せず、信者はクルアーンを手がかりに神への信仰を深めている。
C イスラーム教では、ユダヤ教やキリスト教のように多くの預言者は存在せず、唯一ムハンマドのみが預言者として認められている。

- ① A 正 B 正 C 正 ② A 正 B 正 C 誤
③ A 正 B 誤 C 誤 ④ A 正 B 誤 C 正
⑤ A 誤 B 正 C 誤 ⑥ A 誤 B 誤 C 誤
⑦ A 誤 B 誤 C 正 ⑧ A 誤 B 正 C 正

問 8 下線部 (h) の説明として **適当でないもの** を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① イエスは、当時のユダヤ教にみられた律法主義を批判して、人が律法のためにあるのではなく、律法が人のためにあるのだと説いた。
- ② イエスは、神の国を地上に実現するためにユダヤ教パリサイ派と協力して人々の意識改革を図り、「神の国は近づいた、悔い改めに福音を信ぜよ」と説いた。
- ③ イエスは、ユダヤ教徒から罪人とののしられ、差別、迫害される者たちこそが、神の救いの対象としてふさわしいと説いた。
- ④ イエスは、律法の中でもとりわけ大切にすべきものとして、全身全霊で神を愛することと、どのような者に対しても分け隔てなく愛することの二つをあげた。

問 9 下線部 (i) に関して、例えばクラスでいじめがあった時の行動として、キリスト教の愛の実践に最も近いものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① いじめられている級友の心と身体の痛みと共に感じ、またいじめている級友に人間性を取り戻してもらうためにも、いじめをやめさせようと行動を起こした。
- ② いじめられている級友への思いもさることながら、いじめている級友に対する怒りの感情からいじめをやめさせる具体的な行動を起こした。
- ③ いじめの事実があるにせよ、当面のクラスの秩序を保つためにも事を荒立たせたりせずに、いじめる側にもいじめられる側にも組しないで中立の立場を維持した。
- ④ いじめられている級友を見るに耐えられなくて、彼の話し相手になりながら心の痛みを和らげると同時に、いじめている級友を神になり代わって裁いた。

問 10 本文の趣旨に最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 現代文明の行き詰まりを打開するための糸口を文明のルーツにさかのぼって考えてみることも有効であろう。その際の観点としてよき生をどのように位置づけていたかをたどってみると、いずれのルーツにおいても神への絶対的帰依にそれを見いだしていたことがわかる。
- ② 現代文明は西欧に発達した資本主義や科学技術文明が中心となって形成されているが、いずれも西欧近代が生み出したものであるから、その近代の黎明期に着目することで行き詰まりの打開策を探ることができよう。
- ③ 現代文明は資本主義といい、科学技術といい、いずれも非西欧世界には生まれなかった西欧独自の文明である。したがって、両者を生み出した西欧近代という時代に着目してそれを自覚的に掘り下げるなら必ず困難を乗り越えることができるであろう。
- ④ 現代文明の行き詰まりは、現状に対する批判に耳を傾けないこともその要因としてあげられる。したがって、自らを省みるためにも西欧文明の歴史をさかのぼり、その二つのルーツをよき生という観点で見直すことも有効であろう。

2 次の会話は、高校時代、倫理が大好きだった大学生が、高校の恩師を訪ねた時のものである。これを読み、下の問いに答えよ。

学生：先生！ お久しぶりです。ついに行って来ましたよ、インドに！ 首都デリーから夜行寝台列車に乗りヴァラナシに行ってガンジス川を見に来ました。

師：やるなあ、君！ いきなりインドとは！ 高校時代、倫理大好きやったもんな。

学生：ガンジス川は観光客も多く、小舟に乗って川岸を眺めていると火葬中の煙が見え、感慨無量でした。(a) バラモン教の教えは現在のヒンドゥー教に繋がってるんですね。

師：教科書の小綺麗な写真見ると違って、実際の体験は興味深いわな。

そう言えば、近くにサルナート【鹿野苑】という仏教の聖地もあったはずやが？

学生：行きました！ ガンジス川を渡ってリクシャで1時間ぐらいですかね。ところがその日博物館は休館日で有名なアショーカ王の石柱碑は見られませんでした。

地元のカワイい女子高生グループと写真撮ったからいいですけど……。

師：煩惱具足の学生やなあ君は。で、サルナートに鹿はおったんか？

学生：ぜ～んぜん！ アジア各地から多くの仏教徒が参拝に来てはりました。その地には、(b) ブッダが5人の弟子たちに最初に説教しているリアルな像がありました。僕はインドの大地に立ちながら、(c) やすらぎの境地にいかにかに到りうるかを模索した彼を思いました。

この地を後年玄奘が訪れ、さらに僕が訪れるなんて感激です！

師：……(無言)。君は飛行機で1日ほどでインドに着いたと思うが、(d) 玄奘は苦節16年、陸路で往復したわけや。あの情熱には頭が下がるよ。

学生：さらにデリーに戻って、赤い砦を見学に行ったら、門の前に(e) ジャイナ教寺院があったんで、あわてて拝観に行きました。

師：別にあわてる必要はないと思うが、誰も行かんようなところには行ってないのか？

学生；(f) ガンディー終焉の地に行きました。外国人観光客はいなかったですね。

師：おおっ！ ここがそうなんか！ 私はガンディーを心の師と仰いどるんや。

学生：僕が先生を慕うように、ですか！

師：君は成長したねえ。

【ガンディー最後の足跡】



学生：……で、先生はこの夏どちらに行かれたんすか？

師：中国に行って山東省曲阜にある、念願の(g) 孔子の生誕地とお墓を訪れたよ。

学生：先生は、お茶目な風貌からクラスで「子牛」と言われてましたもんね。

師：孔子廟は歴代の皇帝たちの手によって綺麗に整備されてたね。そこから南に30kmほど行くと(h) 孟子の生家跡やお墓があると聞いて、あわてて行ってきたよ。

学生：孔子と孟子の生誕地が近いっていうのは感動です！

師：びっくりすなよ、さらに少し南に墨子の生誕地があつて、記念館まであったんや。

学生：ええっ！ そんな気がしました。
 師：うそっけ！ 記念館に入ると(i) 墨子は思想家と言うより科学者として扱われてたな。光学の研究、滑車の研究、ベクトルの研究、速射砲の開発などなど、万能人や。
 学生：まるでレオナルドみたいですね、とか言うのは未熟な人間ですよ！
 師：ま、そっ、そうやな。実は今回行かんかったが、荀子の生地も近くにあるらしい。のどかな山東省の田園地帯が、これだけの思想家を輩出したとはね。本当は、道家に関する場所にも行きたかったんやが、(j) 老子は実在も定かやないし、莊子は生没年さえ不詳みたいやから、探さんかった。その代わり上海に寄って、魯迅の旧居や孫文記念館に行って来た。
 学生：エネルギーですねえ、先生は！
 師：「学べば行きたくなり、行けば学びたくなる」という言葉がある！ その実践や。
 学生：いいですねえ、出典は『論語』とか？
 師：私の言葉や……。君、あとでまとめて本にしなさい。
 (*注 リクシャ：自転車仕様の人力車のこと)

問1 下線部(a)に関して、バラモン教とウパニシャッド哲学についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① バラモン教の聖典を『ヴェーダ』といい、これは奥義書という意味である。
- ② バラモン教はシヴァ神を唯一神とし、祭事を重視するインドの民族宗教である。
- ③ ウパニシャッドの考えでは、人の現世のありようは前世での行為に左右される。
- ④ ウパニシャッドの考えでは、梵と我が異なるものであることを悟れば解脱できる。

問2 下線部(b)に関して、これを何というか？最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 初転法輪 ② 六波羅蜜 ③ 四門出遊 ④ 輪廻転生

問3 下線部(c)に関して、ブッダが最初に説法した内容は中道と四諦であったと伝えられている。そのうち、四諦の説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 四諦とは、一切皆苦・諸行無常・諸法無我・涅槃寂靜をいう。このうち諸法無我とは、ブッダが王子の頃、四つの城門から出て老・病・死の苦に接し、世俗的な自己を捨て出家したことをいう。
- ② 四諦とは、苦・集・滅・道の四つの真理をいう。このうち道諦とは、この世は苦に満ちてはいるが、愛する者があれば憎む者もあり、求めて得られる時もあれば、求めて得られぬ時もある。この世は満ちし満たされぬ中道であるという真理を言う。
- ③ 四諦とは、一切皆苦・諸行無常・諸法無我・涅槃寂靜をいう。このうち諸行無常とは、すべてのものは変化しとどまるところがなく、常住不変なるものは何もないという意味である。
- ④ 四諦とは、苦・集・滅・道の四つの真理をいう。このうち滅諦とは、人生は苦に満ちており、その苦の原因は自己やものごとへの執着によるものであるから、この執着を滅すれば苦しみもなくなる、という真理を言う。



サルナート
ブッダと5人の弟子たち

問4 下線部(d)に関連して、玄奘は旅行後有名な『大唐西域記』を著している。その内容は多岐にわたり、当時のインドの仏教界の状況に加え、大乘仏教の思想家についての言及もある。次の資料を読み、この文章の筆者と、文中の空欄に入る語句の組み合わせとして、最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

実に、他によって生じているものは、本体（自己存在）をもって存在しているのではない。それらには自己存在性がないからである。なぜかという、それらは質料因や補助因に依存しているものだからである。もし、ものが本体として存在するならば、質料因と補助因とを取り除いてしまっても、それは存在するであろう。しかし、実際にはそのような場合には、ものは存在しない。本体がないから（ ）であると宣言されるのである。こうして、わたくしのことばさえも、他によって生じて来たものであるから本体をもたず、本体をもたないから（ ）であるということになる。

【筆者】 a 龍樹 b 世親 c 達磨

【語句】 ア 唯識 イ 禪 ウ 空

- ① a ウ ② b イ ③ c ア
- ④ a ア ⑤ b ウ ⑥ c イ

問5 下線部(e)に関して、正しく説明してある文として、**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ジャイナ教の開祖はヴァルダナマーナであり、彼はジナ【勝者】と呼ばれた。つまり、ジャイナ教とは「勝者の教え」という意味である。
- ② ジャイナ教は、バラモン教の原点に立ち帰ろうと改革を目指した宗教でありその教義や神々に対する尊崇の念は、バラモン教を忠実に受けついでいる。
- ③ ジャイナ教では、出家し苦行すること、さらに徹底した不殺生を説いており、信者の中には知らずに虫などを殺めぬよう、始終マスクしている人もいる。
- ④ ジャイナ教は、仏教の立場から見た場合、異端の思想とされており、特にジャイナ教の開祖を含む6人の思想家は六師外道と呼ばれている。

問6 下線部(f)に関して、ガンディーの事跡や思想を正しく説明してある文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 彼は、若い頃イギリスに留学し弁護士となった。その後インドに帰りイギリスのインド人への差別に憤慨し、有色人種の公民権獲得運動を組織し、首都デリーへの「塩の行進」を成功させ、みごと公民権法制定を勝ち取った。
- ② 彼は、「スワラージ・スワデーシ」の思想を説いた。これは三民主義とも呼ばれ、民族の独立・民権の伸張・民生の安定の三つの要素からなる考えのことであり、インド独立運動の基本思想となった。
- ③ 彼は、若い頃イギリスに留学し、帰国後祖国の現状をかえりみて、イギリスの植民地とされたインドを救うには、インド人が人間として当然持っている潜在能力を開発し、それを独立運動に結びつけることを説き、実践した。
- ④ 彼は、「サティヤグラハ」の思想を説いた。これは「真理把持」という意味であり個々の人間が非暴力に徹し、また自らを清廉に保つなど、自己抑制をとおして真理に到達することをめざすことをいう。

問7 下線部(g)に関連して、次の4人の高校生の会話を読み、孔子のことばを正しく理解している人は誰か、最も適当なものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

- Aくん：孔子のことばに「故きを温めて、新しきを知る」というのがあるやん。
これって、古い考えやことがらは、敬いながらも遠ざけ、新しい考えや解釈こそが大事やということやんな。
- Bさん：ちょっと違うと思うけど・・・むしろ、先人たちの考えをしっかりと研究し、そこから新しい学説や解釈を得ることが大事って言う意味やと思うの。
- Cくん：なるほどな、僕は「巧言令色、鮮ないかな仁」っていう言葉が好きなんや。巧みな弁舌で鮮やかに相手を論破する、そういう人にこそ仁の徳が備わっており、戦いに明け暮れるこの時代に必要な人やと孔子は考えたんやと思う。
- Dさん：私は、孔子が学問への姿勢について述べた「学びて思わざれば即ち罔し、思いて学ばざれば即ち殆し」が印象に残ってるわ。いくら知識を学んでも自分で考えないと、はっきりまとまらないし、自分で考えるけど他の考えを学ばない人の考えは危ないものであるって言う意味だと思うの。
- Bさん：ちょっと趣を変えましょうよ。孔子さんて「怪力乱神を語らず」って言うてるわよね。これってどう言う意味なんかなあ？ 私は「妖しげな力や、霊魂など不確かなことは、話題にしない」って言う意味かなと思うんやけど・・・。
- Cくん：違うがな、Bさん。親や先祖を大事にする孔子がそんなこというわけないやん。これは「先祖や死後の霊魂については、恐れ多いことやから口にすることも憚られる」という意味なんや。
- Aくん：僕もこの手の話は興味あるんや。「未だ生を知らず、焉んぞ死を知らん」とか。
- Dさん：それって、まだ生きる意味もわかってないのに、死のことなどなおさらわからないって言う意味やと思う。孔子さんって慎重な人なんやわ。

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| ① A | ② B | ③ C | ④ D |
| ⑤ AとC | ⑥ BとD | ⑦ AとB | ⑧ CとD |

問8 下線部(h)に関連して、孟子の思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 孟子は性善説をとった。彼によれば人はみな善の資質を備えており、それを育てれば善き人になりうる。たとえば他人の不幸を見過ごせない心を「羞惡の心」といいこれを育てれば「仁」の徳になるとした。
- ② 孟子は、師と仰ぐ孔子が万物を支配する理は外の事物に在り、天から授けられた理が人の心の本性であるとする「性即理」を説いたのに対し、理は外にはなく、人の心こそ理であり、心が実際の場で理を生み出していくとする「心即理」を説いた。
- ③ 孟子のことばに「大道廢れて仁義あり」がある。これは乱世の時代には、無為自然を説く道家が盛んであったが、次第に仁義を重んじる自分の思想が諸侯に受け入れられつつあるのは大変喜ばしい、との心境を述べた言葉である。
- ④ 孟子は、人が徳を身につけようとするときに内から発せられる、力強くおおらかで雄大な気を「浩然の気」と名づけ、道徳的修養に励みこの浩然の気を養った理想的な人間を「大丈夫」と呼んだ。

問9 下線部(i)に関連して、墨子など春秋戦国時代に活動した思想家たちを総称して諸子百家という。下の文は諸子百家を説明したものである。空欄に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

墨子は儒家の家族愛を批判し、いわば（ あ ）主義とも言える兼愛を説き、また侵略戦争を戒めて非攻説をとらえた。荀子の弟子であった李斯や（ い ）は、人間を利己的な存在であるにとらえ、荀子の重視する（ う ）ではなく、法と刑罰によって国を統治する法治主義をとらえたので、法家と呼ばれた。

- | | | |
|--------|-------|-----|
| ① あ 別愛 | い 韓非子 | う 義 |
| ② あ 博愛 | い 韓非子 | う 礼 |
| ③ あ 別愛 | い 韓非子 | う 礼 |
| ④ あ 博愛 | い 孫子 | う 義 |
| ⑤ あ 別愛 | い 孫子 | う 義 |
| ⑥ あ 博愛 | い 孫子 | う 礼 |

問10 下線部(j)に関して、道家の思想についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 心齋坐忘：荘子の言葉。儒家による人為的な区別、すべての事物を上下に秩序づけた社会を心から憂いながらも、坐して忘れようとする潔い考え。
- ② 小国寡民：老子の言葉。素朴で柔軟な少数の人びとが住む国は、他国からの侵略を招きやすいゆえに、とらねばならない富国強兵策のことをいう。
- ③ 万物斉同：荘子の言葉。すべてのものは、ひとしく同じであり、人間が作り出した相対的な差違は何ら意味を持たないとする考え。
- ④ 柔弱謙下：老子の言葉。軟弱で卑屈に見えるものは、価値がないと思われがちであるが、あるがままに在るものには善さがあるとする考え。

3 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

「人は本性的に知ることを欲する」、ギリシアの哲学者アリストテレスの言葉である。それは日本に生きる人々においても同様であり、古来より日本人は様々な物事を学んできた。それらはどのようなものであったか、見て行くことにしよう。

古代の日本において学ぶことは、時に命をかけて行われることであった。日本は大陸の文化を学ぶために度々遣唐使を派遣していたが、遣唐使船の半数近くが遭難の憂き目にあったと言われており、まさに命がけの航海であった。その遣唐使船で派遣された代表的な人物が空海である。空海は唐に渡り、(a) 新たな仏教 を日本に持ち込もうとしたのである。また同時期に最澄も天台の教えを求めて唐に渡っており、帰国後、天台宗を開き、比叡山延暦寺の基礎を築いている。中世に入ると延暦寺は仏教の学びの中心となり、法然、(b) 親鸞、(c) 道元、日蓮はこの延暦寺において自らの思想を萌芽させており、日本仏教発展の礎となった。

近世、江戸時代に入ると日本各地に多くの私塾が創られるようになった。京都の堀川沿いには古学派の思想家として知られる(d) 伊藤仁斎の古義堂が開かれ、仁斎が生涯に教えた塾生は三千人を超えていたと言われている。また(e) 石門心学で知られる石田梅岩が心学塾を開き、男子のみならず女子も講義を聞くために通っていた。さらに大坂淀屋橋には裕福な商人たちの手によって(f) 懐徳堂が開かれ、独創的な思想家たちを多く輩出している。また幕末になると江戸神田に佐久間象山の象山書院、大坂船場に緒方洪庵の適塾などが開かれ、西洋の学問が盛んに学ばれ、明治維新の原動力となった。

幕末から明治時代にかけては現代に続く数々の大学が創立された。東京では慶応義塾が適塾の出身である(g) 福沢諭吉によって開かれた。慶応義塾においては『学問のすすめ』に述べられているように、実生活に役立つ学問を学ぶことが奨励されていた。それに対し京都においては、新島襄が(h) キリスト教に基づく良心教育を提唱して同志社英学校を設立、(i) 徳富蘇峰などを輩出している。さらに賀茂川を超えた所にある京都帝国大学においては、(j) 西田幾多郎が教鞭をとり、三木清や西谷啓治らを育てていた。これらの大学で培われた精神は現代にも受け継がれており、ここで学んだ多くの人々が現代の日本を創って来たのである。

以上のように、寺院、私塾、大学と学びの場は変わりながらも、いつの時代も日本人は様々なことを学び、その学んだことを社会に生かし、新たな社会を作り上げてきた。現代においても、当然それは例外ではなく、これからの社会を創るために多くの事を学ぶ必要があるだろう。

問1 下線部(a)の空海が持ち込んだ新たな仏教とはどのようなものであったか、その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 『三教指帰』という書名に表されているように、儒教の礼、道教の神仙術など他の教えの優れた点を導入し、三つの教えが融合した仏教。
- ② この宇宙は大日如来という仏の現れであると考え、大日如来の無限の慈悲にひたすらにすがることによって救いを得ることができるとする仏教。
- ③ 奈良仏教など既存の仏教の各宗派を、真の悟りに至るまでの前段階であると位置づけ、最終的にはこの身を持ったまま仏になることを目指す仏教。
- ④ 個々の人間の素質によって仏になれるかどうかには差別があるとする説を批判し、全ての人間に仏性が具わっており、仏となることができるとする仏教。

問2 下線部(b)の親鸞の思想についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 阿弥陀仏は慈悲深い存在なので、善行を為し自らの力で成仏できる善人よりも、罪を犯したために成仏できない悪人を優先して救いの対象とする。
- ② 人間は阿弥陀仏にすがらなければ救いが得られない存在なのだから、ひたすらに心の中で阿弥陀仏を念ずる観想念仏こそが極楽往生への道である。
- ③ 末法の世にあっては自力で悟ることは困難であるから、念仏を称え、阿弥陀仏の力を借りることによってのみ、この世で悟りを得ることが可能である。
- ④ 全ては阿弥陀仏のはからいによって起こっていることであり、念仏を唱えるということもまた阿弥陀仏の力によることを自覚しなければならない。

問3 下線部(c)の道元の著作として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 『正法眼蔵』 ② 『歎異抄』 ③ 『立正安国論』 ④ 『興禅護国論』

問4 下線部(d)の伊藤仁斎の思想についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 形式に陥った朱子学の規範を批判し、孔子の語った本来の言葉の意味に基づく、時・処・位に応じて変化する実践的な道徳を説いた。
- ② 私心を持たない心情を誠と呼んで重んじ、誠の心を持ち、人々の道徳的な模範となって生きることが士道であると説いた。
- ③ 自分を偽らず、他者を欺かない純粋な真実無偽が心のあり方として肝要であると考え、その心は忠信という形で実践されると説いた。
- ④ 孔子の教えの基本を仁愛であると考え、仁愛に基づく政治が行われた先王の道を実現することが為政者の義務であると説いた。

問5 下線部(e)の石門心学についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 「商人の買利は士の禄に同じ」という言葉によって身分制度の中で商人が不当に貶められている事を批判し、封建的な身分秩序を否定した。
- ② 商人が利益を追求することは倫理的に正しいとする一方で、不当に贅沢な生活を送ることを戒め、それぞれが自分の分限を知って生きることが大切であると説いた。
- ③ 商人の利は正当な報酬であるとして肯定したが、その利益は世間から得たものなのだから、社会に還元しなければならないということを推譲という言葉で表した。
- ④ 商人の営利活動を肯定したが、商人の道は義理と人情であると述べ、世間の事を考えて商売を行わなければならないと主張した。

問6 下線部(f)の懐徳堂に学んだ人物で、無鬼論と言われる唯物論を展開した人物として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 三浦梅園 ② 山片蟠桃 ③ 富永仲基 ④ 西川如見

問7 下線部(g)の福沢諭吉の思想についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 晩年になると脱亜入欧を説く立場から、アジアの国々は一体となって伝統的な体制を捨て、ヨーロッパのような国家になっていかなければならないと述べた。
- ② 天賦人權論に見られるように、全ての人間は生まれながらに自由で平等であると考えていたため、自由民権運動については一貫して支持し続けていた。
- ③ 明六社に参加し、ルソーの『社会契約論』を翻訳するなど西洋の思想を紹介し、国民の啓蒙に努めていた。
- ④ 他人や政府に経済的に依存せず、自主独立して生きる人間が文明社会において有るべき姿であると考え、そのような人間を育むことが国の独立につながると考えた。

問8 下線部(h)に関連して、日本のキリスト教思想家である内村鑑三について述べたものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① キリストへの愛と信仰に基づいた絶対的平和主義こそが真の愛国の道であると考え、日露戦争の際には徹底した非戦論を唱えた。
- ② 「武士道に接木されたるキリスト教」という言葉に表れているように、武士道とキリスト教は融合可能なものと考え、『武士道』を著した。
- ③ 人道主義の立場からキリスト教と社会主義を結びつけ、真の議会政治の実現のために、普通選挙の実現に努力した。
- ④ キリストへの信仰と日本への愛は両立できるものであると考え、日本をキリスト教の精神で満たすことが、経済的な強国に導くことであると主張した。

問9 下線部(i)の徳富蘇峰は『将来之日本』において以下のように述べているが、この文章から読み取れる内容として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

国民なるものは実に茅屋のうちに住するものに存し、もしこの国民にして安寧と自由と幸福を得ざるときにおいては国家は一日も存在するあたわざるを信ずるなり。しかしてわが茅屋のうちに住する人民をしてこの恩沢に浴せしむるは実にわが社会をして生産的の社会たらしめ、その必然の結果たる平民的の社会たらしむるにあることを信ずるなり。すなわちわが邦をして平和主義を採りもって商業国たらしめ平民国たらしむるは実にわが国家の生活を保ち、皇室の尊栄も、国家の威勢も、政府の鞏固も、もって遙々たる将来に維持するの最も善き手段にして国家将来の大経綸なるものは、ただこの一手段を実践するにあるを信ずるなり。

- ① 天皇を中心とした国造りを進めることこそが国家の将来につながるものであり、国家の威勢を強めるためには身分制を維持しなければならない。
- ② 日本国民が経済的に豊かな生活を送ることができるようにすることが国家の役割であり、そのためには国家は強権を持ち、国民を導いていかなければならない。
- ③ 国民が自由と幸福の中で生きられる社会を作ることが国家の役割であり、そのためには産業化を進め、経済的に豊かな国を目指さなければならない。
- ④ 国家は何よりもまず国民の豊かな生活を実現すべきであり、そのためには日本を西洋諸国から侮られないような軍事的な強国にしなければならない。

問10 下線部(j)の西田幾多郎の思想について述べたものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 人は孤立して存在するのではなく、人と人との関わりの中で人間たりうると考え、そのような存在である人間を間柄的存在と呼んだ。
- ② 主客未分の段階における経験を根本的な経験と考え、この経験こそが真の实在であるとして、西洋哲学を乗り越えようとした。
- ③ 文献研究を中心とする歴史学を批判し、無名の庶民である常民が保持している民間伝承を研究することで、日本の伝統文化を解明しようとした。
- ④ 近世の日本政治史を研究する一方で、日本におけるファシズムの展開についての分析を行い、戦後の民主主義思想を主導した。

4 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

冷静さを失った人に「感情的になるな」とたしなめたり、主観に偏った議論に対して「それは感情論だ」と批判したりするように、感情という言葉は非理性的という好ましくない意味で使われることがある。しかし、日常において私たちは理性だけでなく、好き嫌いなどの感情に基づいて多くの選択や決断を行っている。ここでは、情念や心情なども広義の感情に含めることとし、感情に焦点を当てて西洋の近代思想を振り返り、その意義について考えてみよう。

古代や中世とは異なる近代という時代のもつ特徴は、人間尊重の精神である。その基盤は、ルネサンスや(a) 宗教改革によって生み出された。ルネサンスの人文主義者や芸術家たちは、あるがままの人間性を肯定し、文学や芸術など様々な分野で現世に生きる楽しみや感情を表現した。封建的秩序に縛られない人間らしい生き方の追求として、理性だけでなく感情も重視されていた。一方、宗教改革の中心人物となったルターは当初、宗教改革を起こそうという政治的意図はなく、純粋に神学上の疑問から贖宥状を批判したにすぎなかった。しかし彼の思想は、「ローマの牝牛」と揶揄されるほどカトリック教会から搾取されていたドイツの人々の間で大きな反響を呼び、やがて宗教改革へつながるきっかけとなった。ルターの思想が人々の苦しみや怒りなどの感情に影響を与え、教会を変革する大きな運動へ結実したといえるだろう。

16～17世紀に近代科学が成立すると、理性主義の傾向が強まるにつれて、感情に対する評価は低下しはじめる。(b) 合理論の祖デカルトは、実践面について、感情や欲情などの情念に左右されず、理性的な意志によって精神を支配しなければならないと説いた。また、理性の認識能力を吟味したカントは、人間は理性的存在であると同時に自然的存在であり、感情や欲求に流されて誤った行為をしてしまうことがあるので、自律した存在として生きるために (c) 理性の道徳的命令に従うべきだと主張した。感情は、理性の対極におかれ、正しい判断を狂わせるものとみなされている。

一方で、感情の意義を重視していた思想家もいた。たとえば(d) モラリストのパスカルは、「われわれが真理を知るのは、理性によるだけでなく、また心情によってである」と述べている。彼は理性の限界を認め、信仰や豊かな愛の感情が人間に幸福を与えると考えた。他にも、(e) 社会契約説を唱えたルソーは、理性を完成するのは情念の活動によるとし、憐れみの情は普遍的で有益な自然の美德だと捉えた。また、ヒュームや(f) アダム＝スミスは、同情心・共感などの道徳感情が、道徳の基本原理になると説いた。実はデカルト当人も晩年には、理性による善悪の判断に従うならば、情念に最も動かされる人間が人生において最もよく心地よさを味わうことができると述べ、情念の価値を高く評価している。

このように、感情は様々に捉えられてきた。愛情や共感などのように、人に幸福感や救いをもたらす感情もあれば、(g) 怨恨や嫉妬などのように、理性によるコントロールを必要とするものもある。必ずしもすべての感情が(h) 人間や社会に幸福をもたらすとは限らない。そのためか、現代思想の多くは(i) 近代の理性主義への反省から出発することはあっても、感情を研究の主題とするものは稀である。しかし、理性と同様に感情も人間性の重要な一部であり、人生や社会の豊かさと深く関わるものといえるだろう。したがって、A。

問1 下線部(a)に関連の深い思想家についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 教会のあり方に抗議するためルターが「95か条の論題（意見書）」を公表したことに反対して、エラスムスは『愚神礼讃』を著し、教会や聖職者の立場を擁護した。
- ② 信仰と救済についてルターは、罪からの救いは善行にあるのではなく、神への信仰のみであり、信仰の拠りどころは神の言葉を直接しるした聖書だけだと考えた。
- ③ ジュネーヴで宗教改革を指導したカルヴァンは、救済はすべて神の意志によって予定されているが、慈善行為などの善行は最後の審判において考慮されると説いた。
- ④ ウェーバーは、宗教改革に対抗して組織されたカトリックのイエズス会による禁欲、勤勉、正直などを重視する職業倫理が近代資本主義の精神の基盤になったと述べた。

問2 下線部(b)に関して、デカルトの思想についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 中世のスコラ哲学は、現実から遊離した議論におちいつている。学問の真の目的は、学問それ自体ではなく、偏見を排除した経験や観察による新たな発見のもたらす力によって自然にはたらきかけ、自然を支配して人類の生活を改善し、豊かにすることである。
- ② あらゆる観念は経験から生じ、それぞれの観念を関連づけるのは人間の習慣の働きによる。したがってわたしたちのもつ知識とは、経験や想像力によって生み出された信念や仮説にすぎず、自我は単なる「知覚の束」にすぎない。
- ③ この世界には、思惟を属性とする精神と、広がり（延長）を属性とする物体が実在する。精神と物体はたがいに独立し、相互に関係することも影響することもないのだが、思考し身体をもつ一人の人間は、精神であると同時に物体でもある。
- ④ 思惟と広がり（延長）という属性は、神のもつ無限の属性のうちの二つである。そして自然は、無限で永遠の唯一の実体である神のあらわれであり、神とつながる必然的関係において万物を認識することに、理性の最高の働きと幸福がある。

問3 下線部(c)に関連して、次の国際政治に関する為政者の方針のうち、カントの道徳法則の考え方に即しているものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① まず実行し、のちに正当化せよ：自国民に対する国家の権利や、隣接する他国家の権利を手中に収めたければ、それらの権利を獲得してから正当化すべきである。事前には是非を議論するよりも、事後説得して承諾を得るほうがはるかに容易である。
- ② 国際的視野をもち、一致団結させよ：政府に対する国内の不満が高まった場合、求心力を強めるために、海外に目を向け隣国を敵と想定して情報操作すべきである。対外的不信感が募り、国民は団結して外敵に対処しようと考え政府に協力的になる。
- ③ 理性に従い、利益を求めて行動せよ：同盟国との軍事情報の共有や貿易黒字の増加を目指すならば、国際状況を分析し、兵器の開発と輸出を促進し科学技術を向上すべきである。世論の批判の矛先をかわすためにも、経済成長を続ける必要がある。
- ④ 良心に従い、義務の念から行動せよ：国際平和などは空虚な理念であるという意見に惑わされず、良心にもとづき法を遵守すべきである。たとえ近隣国が国際秩序に反する行為をしていても、国際法や憲法を守ることが為政者の義務だからである。

問4 下線部(d)に関連して、パスカルは人間について「考える葦である」と定義した。「考える」ことについて述べた次の文章を読み、(あ)(い)に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

パスカルによれば、人間を正しく把握するには、(あ)的精神と(い)の精神の両方が必要である。(あ)的精神は、数学や物理学で必要とされる、科学的・合理的に思考する厳密な推論の能力である。(い)の精神は、心の機微を見抜き、現象の背後にある真理を直感する能力である。パスカルは、神や信仰、真理、愛などを知るためには(い)の精神が不可欠であると考えた。

- | | | | |
|---------|------|---------|------|
| ① あ 機械論 | い 高邁 | ② あ 機械論 | い 繊細 |
| ③ あ 懐疑 | い 吟味 | ④ あ 懐疑 | い 高邁 |
| ⑤ あ 幾何学 | い 繊細 | ⑥ あ 幾何学 | い 吟味 |

問5 下線部(e)に関連して、社会契約説とそれを唱えた思想家の説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 社会契約説とは、国家の成立は個人間の契約にもとづくもので、国家の目的は人間が生まれながらにもつ自由や平等のような自然権を守ることにあるという考え方である。近代の市民社会の成立を準備し、市民革命に大きな役割を果たした思想である。
- ② ホッブズによれば、自然状態は「万人の万人による戦い」である。これでは自己保存の目的が果たせないで、人々は平和を求めて互いに社会契約を結んで自然権を共通の権力者に一部信託し、国家が成立した。彼の思想は、絶対王政を否定するものとなった。
- ③ ロックによれば、自然状態は自然法すなわち理性が支配する、自由、平等で平和な状態である。しかし所有をめぐって争いが起こるので、人々は所有権を政府に全部譲渡する契約を結び、国家が成立した。彼の思想は、清教徒革命の思想的支えとなった。
- ④ ルソーによれば、自然状態は自己愛と他者への憐れみに基づく平和で平等な状態である。しかし私有財産制によって争いが起こり墮落したので、各人が自己を全体意志に服従させる契約を結び、国家を作り直す。彼の思想は、フランス革命を後押しした。

問6 下線部(f)に関連して、次の文章はアダム=スミスが自己是認の可否について述べた文章の一節である。この内容の説明として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

私たちは、言わば自分本来の立場を離れ、自分の感情や動機をある程度離れたところから見るように努めない限り、自分の感情や動機を仔細に検討することはできないし、それについて判断を下すこともできない。だがそうするためには、他人の目を借りたつもりで見ると、他人が見るとおりに見るべく努力する以外に方法がない。したがって、自分自身の感情や動機についてどんな判断を下せるとしても、それはつねに、他人はいまどう判断しているのか、もしこうしたらどう判断するか、あるいはどう判断すべきだと考えられるか、といったことを暗黙裏に参照したものとなるはずである。私たちは公正で中立な観察者のやり方を想像し、そのとおりに自分の行動を吟味しようと努める。自分を中立な観察者の立場に置いてみたときに、自分の行動を支配した情念と動機に全面的に感情移入できるなら、想像上の中立な裁判官による是認に同意し、その行動を是認する。
(『道徳感情論』より)

- ① 自分自身の感情や動機を仔細に検討し、是認するか否かを判断するには、必ず他人の目が必要である。周囲にいる人々の同意を得ることができなければ自己肯定することができないので、常に他人から意見を聞き、それを基準に行動しなくてはならない。
- ② 中立な観察者は、神や天使のような人間を超えた視点から、人間の行動に公正な評価を下す。したがって、生きている間に自分の感情や動機を吟味することはできても、死後に中立な観察者からは是認されるかどうかについては、想像する以外に方法はない。
- ③ 私たちは、行為する自分と、その行為の動機や感情が是認できるかどうかを判定する自分を、厳密に区別するよう努める。後者は他人の視点を取り入れ、前者から少し離れた中立公正の立場で観察し、前者の行為に全面的に感情移入できるときに是認する。
- ④ 人の行動は、心の中の情念や感情を動機とするものであるから、行動を起こした後でその是非を吟味しても過ちを防ぐことはできない。したがって、行動を起こす前に情念や感情を暗黙のうちに検討し、理性によって全面的に支配するよう努めるべきである。

問7 下線部(g)に関連して、実存主義の思想家ニーチェは、キリスト教の道徳は弱者が強者に対してつるサンチマン(怨恨)から生まれた奴隷道徳であり、現世を生きる人間の生への意志を抑圧するとして批判し、新しい価値を創造する存在を目指すよう説いた。その存在を表す言葉として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 世人 ② 超人 ③ 超越者 ④ 単独者

問8 下線部(h)に関連して、人間にとって有益であるか、社会を進歩させるかという視点を重視した思想家についての説明として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ベンサムは功利主義の立場から、理想社会を「人倫の完成態」と表現し、できるだけ多くの人ができるだけ質の高い幸福を得られる社会を目指すべきだと主張した。
- ② コントは実証主義の立場から、検証可能な経験的事実にもとづく法則を見出し、その法則によって社会を進歩させることが社会科学の役割であると主張した。
- ③ スпенサーは社会進化論の立場から、生物と同じように、人間の社会も自由競争による適者生存の仕組みがはたらくことによってよりよい秩序へ進化すると主張した。
- ④ デューイはプラグマティズムの立場から、生活における問題解決の道具として役立つ創造的知性によって、社会を改良し明るい未来を創造していくべきだと主張した。

問9 下線部(i)に関連して、近代の理性主義を批判した学派にフランクフルト学派がある。次のア～ウのうち、フランクフルト学派の第一世代の思想を批判的に継承したハーバーマスの思想を正しく説明したものはどれか。下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ア 生命の進化は「生命の跳躍（飛躍）」によってもたらされ、人間の理性もそうした進化の過程で登場する。しかし自分の属する共同体の外にいるものを排除する人間の本能は根強く、理性だけでは全人類や全自然を排除しない「開かれた道徳」に気づかない。そこで「愛の跳躍」を導くものによって、「開かれた社会」への進展が可能となる。
- イ 自由で主体的な個人が、理性と労働を通じて世界を進歩させるという人間観は、誤りである。未開の人々の、感性と知性が結びついた「野生の思考」には、自然と共生しながら人々が共存する知恵がそなわっている。文化の価値に優劣をつけず、多様な文化が互いに刺激を与えながら共存すべきである。
- ウ 理性とは、単に孤立した自我が科学技術にもとづく効率的な成果達成や支配秩序を追求する道具ではない。対等な立場での自由な討議にもとづいて合意を形成する対話的理性こそが、社会に基盤を与えている。対話を通じて社会の基盤を捉えなおすことにより、生活世界の植民地化から脱することができるのである。

① ア ② イ ③ ウ ④ アとイ ⑤ イとウ ⑥ アとウ

問10 本文の趣旨を踏まえて、に入れる記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 私たちは、理性による善悪の判断によって感情をコントロールすることをやめたほうがよいのではないだろうか。自然な感情のおもむくまま、自由に人間性を発揮することで能力を開花させ、それによってより幸福な人生を送ることができるといえよう。
- ② 私たちは、理性によってすべての感情を律することができるという信念をもつべきではないだろうか。その信念にもとづき、道徳的判断に従う訓練を重ねることにより、生活の安定と豊かさを実現していくことができるだろう。
- ③ 私たちは、他者から感情をコントロールされる危険性があるとの観点から、感情の意義について再考するべきであろう。そして、政治的意図により誘導されないよう常に警戒することで、平和で豊かな社会を作っていくことができるのではないだろうか。
- ④ 私たちは、感情についても考察したほうがよいのではないだろうか。自らの負の感情をどう律するべきか、他者の感情をどうくみ取り理解するかなどについて吟味し、感情の意義を見つめ直すことも、善く生きるために大切なことだろう。

5 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

大人たちが、若い世代の振る舞いに眉をひそめ、「今どきの若者は…」という小言を言うてしまうことは、昔から繰り返されてきたとよく言われている。かくいう大人たちも、かつて若者だった頃、当時の大人たちからは問題視されていたというわけである。

しかし、「若者が問題として対象となる」ということ、とりわけ青年期が独自なものとして対象化されるのは、実は近代社会の成立後のことである。近代以前は、子どもは(a)「小さな大人」として扱われ、(b)「通過儀礼」を済ませばすぐに大人の仲間入りをした。子どもと大人の間に青年期という段階が置かれるようになったのは、近代の産業社会が発展し、それを支える技術や能力を訓練する期間が要請されるようになってからである。近代化を進める各国が公立の学校を設置し、教育制度を整える中で、青年期が社会的に確立していった。日本もその例外ではなく、明治以降、文明開化に乗り遅れた大人たちが「天保老人」と揶揄され、それと対比される形で「青年」が登場し、新日本を担う存在として期待されるようになったのである。

だが、若い世代への期待は当初からその裏返しとしての批判をともなっていた。例えば徳富蘇峰は著書『大正の青年と帝国の前途』の中で、大正の青年たちの(c)「人格を5類型に分け、いずれの類型においても愛国心が欠け、大志を抱いていない」と嘆いた。徳富の青年論は、吉野作造によって、青年をめぐる社会的諸制度のあり方への具体的検討を欠いた単なる抽象論であるとして批判されることになるが、青年に対する両義的なまなざしが当時から存在していたことがよく示されている。

このように、近代以降、新たに認知され、議論の対象とされるようになった「青年」が、学問的な主題として本格的に取り上げられたのは、1950年代末から1970年代前半頃である。この時期、大学や高校の大衆化によって青年の社会的影響力が増大し、学生運動に代表される「青年の異議申し立て」が世界的規模で起きていたが、(d)「この現象に対してあるアメリカの精神分析学者が理論的説明を与えたのである」。彼は、近代社会における青年期の意義を説明するとともに、発達心理学の視点から青年の心理を分析し、青年期の課題は「アイデンティティの確立」であるとした。彼によれば、「異議申し立て」のような反抗は、モラトリアム期間である青年期の特徴がよく表れた現象なのである。

しかし、1970年代後半から1980年代以降になると、青年論のテーマの中心は「アイデンティティの確立」よりも、むしろその失敗状態である(e)「アイデンティティの拡散」へと移っていった。それと並行して、若い世代を指す言葉として「青年」ではなく「若者」が多用されるようになった。背景には、高度経済成長が終わり、近代成熟期を迎え、価値観が多様化し、標準モデルが失われていくという当時の時代状況がある。そうした時代状況を生きる若い世代は、大人になることを前提とした「青年」としてよりも、大人になれない、あるいはならないまま自分探しをする「若者」として捉えた方が有効であったのである。そこに(f)「情報化社会」や消費社会の進展が加わると、「新人類」という言葉が若者を指し示す言葉として流行するようになった。しかし、ここにもまた、若い世代の振る舞いを(g)「新たな文化」をつくり出すものと見なしつつ、どこか得体の知れないものとして捉えるという、両義的なまなざしが見え隠れしていた。

このように、若い世代に対する語り口が、発達心理学的な理解にもとづく青年論から、情報化社会、消費社会の申し子として描く若者論へとシフトしてからも、彼らに対する両義的なまなざしは変わらなかった。1990年代以降、いわゆる「失われた20年」の間には、格差社会を生きる弱者として若者を捉える一方、世論の高まりにより少年法が厳罰化されるという事態も起きた。そして現在、若者たちは従来のような(h)「欲求」を持たない「さとり世代」と呼ばれ、やはり大人たちから「異質な他者」として捉えられ続けている。

以上、見てきてように、若い世代は、青年期の誕生と同時に大人たちの両義的なまなざしにさらされ続けてきた。しかしこれは、時代の変化の波に洗われる大人たち自身の中にある不安やとまどいが、若い世代へ(i)「投影」されてきた結果であるともいえる。「今どきの若者は…」という決まり文

句から切り出して「若い世代が問題だ」というとき、その問題を「異質な他者」の側の問題ではなく、社会全体の問題が表れたものとして、大人たちが受け止めるなら、若い世代の振る舞いは単なる「問題」であることを超えて、未来を切り開く可能性を示すものとなりうるだろう。

問1 下線部(a)について、中世ヨーロッパの絵画などの分析から、今日の意味における子どもが誕生したのは近代以降であることを解明したフランスの歴史学者として最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① アリエス ② ホイジंगा ③ レヴィン ④ ピアジェ

問2 下線部(b)について、通過儀礼の内容を説明した文章として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 成長した子どもが、社会に対する反抗的な自己主張を、大人にぶつけて対決しつつ、社会に認められる肯定的な自己主張に高め、大人の仲間入りをすること。
② 成長した子どもが、苦痛や恐怖をとまなう行為をし、象徴的に死と再生を経験することで、一人前の人間として認められ、大人の仲間入りをすること。
③ 成長した子どもが、肉体的変化や精神的変化にともなって自意識に目覚め、あらためてひとりの男性、女性であることを自覚し、大人の仲間入りをすること。
④ 成長した子どもが、社会環境や自然環境との間に調和的關係をつくり、自分の欲求を満足させることで、大人の仲間入りをすること。

問3 下線部(c)に関連して、人格の類型論を唱えた学者に、シュブランガー、クレッチュマー、ユング、リースマンがいる。彼らの学説を説明したものと**して適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① シュブランガーは、人生はその人が追求する価値によって方向づけられると考え、理論型、経済型、審美型、社会型、権力型、宗教型という6つの性格類型に分け、このような価値に基づく「生の諸形式」によって人生や文化のあり方を解釈した。
② クレッチュマーは、人の性格はその人の体型と関係していると考え、やせ型には真面目で神経質な分裂気質が、肥満型には社会的で激しやすい躁鬱気質が、筋骨型には几帳面で執着しやすい粘着気質が見られるとした。
③ ユングは、心のエネルギーが向かう方向によって人の性格を分類し、外に向かう外向型は、社会的で交際範囲が広い一方、飽きっぽく移り気であるとし、内に向かう内向型は、控えめでじっくり物事を考える一方、適応力に欠けるとした。
④ リースマンは、人間の社会的性格を伝統指向型、内部指向型、他人指向型の3つに分類し、現代の大衆社会において、群衆の中で孤独に生きる現代人は、自己の内面的な価値や目標を指向して行動する内部指向型であるとした。

問4 下線部(d)について、この精神分析学者として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① エリクソン ② アドラー ③ フロム ④ オルポート

問5 下線部(e)に関連して、以下の文章は、精神分析学者である小此木啓吾の著『モラトリアム人間の時代』の一節である。これを参考に、「モラトリアム人間」の特徴を説明したものとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

「アイデンティティの拡散症候群」からはじまり、「スチューデント・アパシー」や青年の「しらけ」「四無主義」などの、精神病理現象の形であらわされるような、いわば受身的につくり出された否定的なモラトリアム心理を、(中略)人々は次第に居心地よいものとして肯定し、積極的に意義づけ、ひいてはその存在意義を公然と主張するようになり、最終的にはどの年齢、性別、職種、階層の人々も、「モラトリアム人間」を、むしろ望ましく好ましい人間のあり方として内在させることになった。つまり、モラトリアム人間は現代人一般の「社会的性格」になったのである。

小此木啓吾『モラトリアム人間の時代』より

- ① 「モラトリアム人間」は、無気力、怠惰な青年期を過ごし、いつまでも自立できないまま大人になってしまった人間のことで、精神病理的な社会的性格である。
② 「モラトリアム人間」は、アイデンティティの拡散の中に置かれ、否定的なモラトリアム心理をもつ人間のことで、若い世代に特有の社会的性格である。
③ 「モラトリアム人間」は、未熟な自己を保持し、アイデンティティを未決にすることで現代社会に適応する人間のことで、現代では一般的な社会的性格である。
④ 「モラトリアム人間」は、どのタイプの人々とも好ましい人間関係を築く能力を持つ人間のことで、現代社会では存在意義のある望ましい社会的性格である。

問6 下線部(f)について、情報化社会の進展が若い世代に及ぼす影響の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① インターネットで大量の情報が手に入るようになったので、若い世代は、情報の取捨選択のために、新聞やテレビなどのマスメディアを信頼するようになった。
② 物心がついた頃からIT環境に親しんできた若い世代は、デジタルネイティブと呼ばれ、SNSなどを使いこなして交友範囲を拡大するようになった。
③ 情報が価値を生む情報化社会の進展により、若い世代は、個人情報の保護への意識を高め、インターネット上での個人情報のやりとりを控えるようになった。
④ 携帯電話やスマートフォンは、情報のやりとりを高速化し、人間同士をより直接的に結びつけるので、若い世代の間で人間関係のトラブルが減るようになった。

問7 下線部(g)に関連して、若い世代が生み出す文化を若者文化(ユースカルチャー)というが、その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 若者文化は、カウンターカルチャーとも呼ばれ、大人の文化に導く窓口のような役割を果たしており、大人の文化を理解するための教養を重んじる文化である。
② 若者文化は、サブカルチャーとも呼ばれ、大人の文化に対する副次的な文化として、大人の文化を補完しつつ、大人の文化との統合を目指す文化である。
③ 若者文化は、ファッションや音楽などの領域で新たな流行を生み出すなど、若い世代の感性によって、大人の文化にはないものを創造しうる文化である。
④ 若者文化は、若い世代が大人の文化を消費しながら作り上げる新たな文化であり、商業主義と結びつき、物質的な豊かさを謳歌する文化である。

問8 下線部(h)について、人間の欲求を研究した学者にマズローがいる。以下の文章は、高校生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんが、授業でマズローの欲求階層説を学んだ後に、振り返りシートに書いた内容である。欲求階層説を最もよく理解しているのは誰か、最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。

Aさん：やはり愛を得られないと何も始まらないと思った。おいしい食事が食べられて、安心して眠ることができるベッドがあっても、愛がなければ、人間の基本的な欲求は満たされないのだ。

Bさん：まず周囲の人に認められ、自信を持つことが大事だと感じた。そうしなければ、自分の身を守ったり、どこかのグループに入ったりしようなんて気持ちにはそもそもなれないのだ。

Cさん：人間の欲求は複雑だけど、一番基本的な食欲や睡眠欲などから順番に満たしていくことが大切だと分かった。そして最終的には自分の持つ可能性を十分に発揮したいと思えるようになることが人間の成長なのだ。

Dさん：衣食足りて礼節を知るということわざは本当だなと思った。着る物も食べる物もなければ人間関係に気を配るなんてできないから、健全で幸福な人生を送るためには欠乏を満たすことが最も大切なのだ。

- ① Aさん ② Bさん ③ Cさん ④ Dさん

問9 下線部(i)に関連して、精神分析学の創始者フロイトは、「投影」を不安や緊張から自我を守るしくみである防衛機制のひとつとした。次の各行動と、防衛機制の種類を組み合わせとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

- a 失恋したが、その後、受験勉強にエネルギーを集中して大学に合格した。
- b ペットを飼ってもらえなかったので、ぬいぐるみをかawaiiがった。
- c 大嫌いな人にばったり出くわしたが、こちらから笑顔で話しかけた。
- d 好きなマンガが売り切れだったが、きっと面白くないと思ってあきらめた。

- | | | | | |
|---|------|------|--------|--------|
| ① | a 逃避 | b 抑圧 | c 合理化 | d 退行 |
| ② | a 昇華 | b 代償 | c 反動形成 | d 合理化 |
| ③ | a 代償 | b 逃避 | c 投影 | d 反動形成 |
| ④ | a 抑圧 | b 昇華 | c 退行 | d 投影 |
| ⑤ | a 昇華 | b 抑圧 | c 反動形成 | d 退行 |
| ⑥ | a 逃避 | b 代償 | c 投影 | d 合理化 |
| ⑦ | a 代償 | b 昇華 | c 退行 | d 反動形成 |
| ⑧ | a 抑圧 | b 逃避 | c 合理化 | d 投影 |

問10 本文の内容と合致する文章として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 大人たちが「今どきの若者は」と批判するのは昔から続いている現象であって、その大人たちも若いときは当時の大人たちから同じように批判されていたので、「若い世代が問題だ」というならその問題の解決を大人が引き受けるべきである。
- ② 青年期は時代の要請にしたがって設定されたものであり、そのあり方も時代によって変化するが、若い世代の行動が社会に与える影響力は大きいので、彼らの影響力の増大を大人たちが抑止していくことが、未来を切り開くために大切である。
- ③ 現代では、若い世代が格差社会の弱者となって自己の欲求さえ見失っているが、情報社会や消費社会にいち早く適応する彼らから学ぶことも多い大人の世代は、若い世代の問題を理解し、温かいまなざしで見守っていくべきである。
- ④ 若い世代の振る舞いは、大人たちが理解に苦しむ問題ともなるが、偏った価値判断をせずに観察すれば、大人たち自身のあり方について理解を深めたり、現在や将来の社会のあり方について考えたりするための手がかりになるものである。